

羽布自治区
保存版

みんなで楽しく未来をつくろう!



しもやまスマイルプラン

あなたの行動が「しもやま」を変える!

WE
LOVE
しもやま

2021.4 - 2026.3

まちづくりに大切な2つのこと

1 『WE LOVE しもやま』

～下山への愛情と誇りを高める合言葉～
下山には、たくさんのLOVEがあふれています。
下山への想いを、みんなで形にしていましょ!

2 みんなで楽しく 未来をつくろう(共働)

住民が中心となって行う活動、行政が取り組む事業、
事業者が地域のために行うこと、
みんなで一緒に取り組むこと。
同じ方向を見て、**共働**で楽しく活動しましょう!



新しくなった
「WE LOVE しもやま」のロゴマーク

周りにある18の円は11分野と
7つの自治区を表しています。

しもやまスマイルプランって何?

しもやまスマイルプランは、「下山の10年後の将来像」を見据えて、「まちづくりの方向性」を定め、事業を実施するための「具体的な取組」をまとめた、みんなが行動するための計画です。取組の内容は、11の分野と7つの自治区で、それぞれ検討しました。

まちづくりの方向性(10年間)

具体的な取組(5年間)

後期の取組

10年後の
将来像

下山の10年後の将来像

子どもの声が聞こえ、
笑顔で暮らせるまち
しもやま



みんなをめざす下山のまちづくりの方向性

下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」を減らさない取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。

住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による自治活動を次代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもからお年寄りまで、誰もが安心して生活できる環境をつくれます。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 下山地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境づくりを行います。

具体的な取組

羽布自治区の取組は、
裏面をご覧ください。

発行	下山地域まちづくり推進協議会	2021年3月
問合せ	電話	0565-90-2111(事務局下山支所)
	FAX	0565-90-3344
	メール	shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp



羽布自治区プラン

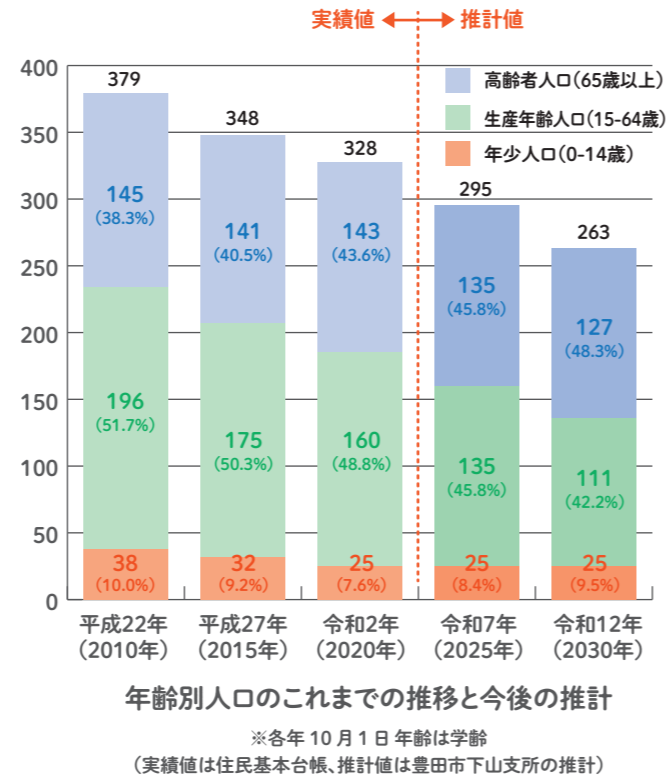
① 羽布自治区の現状

人口の減少、特に若者世代の減少

- 令和2年の人口は328人であり、この10年間で51人減少しています。特に、15歳から64歳の生産年齢人口は大きく減少しています。
- この傾向が今後も続くと、令和12年の人口は263人に減少し、生産年齢人口の減少はさらに続き、高齢化率は48.3%になると予想されます。

人口減少・若者の減少が地域に及ぼす影響

- 住民減少と若者世代の減少に伴い、地域の運営や行事などの次の世代の担い手が少なくなるとともに、農地や山林の管理も困難になっています。また、今後のひとり暮らし高齢者の増加、自動車を運転できない人の移動手段の確保、空き家の増加などが心配されています。



② 羽布自治区の10年後の将来像

- ▼ 高齢者は増えていますが、ご近所同士の世代を超えた交流や助け合いが盛んです。
- ▼ 高齢者も含めて、みんながパソコンやスマートフォンを使えるようになり、暮らしが楽しくなっています。
- ▼ 地域の防災施設が充実し、災害に備えた住民の意識も高まっています。
- ▼ 住宅や農地の将来を地域全体で考えるようになり、空き家や遊休農地が様々な方法で活用されています。
- ▼ 子どもや子育て世帯にとって、暮らしやすい地域になっています。
- ▼ 古くからの住民、移住者、その他の羽布と関わりのある人も含めて、みんなで親睦を深めたり交流する機会が生まれており、羽布の関係人口は増えています。
- ▼ 景観の整備などにより三河湖の魅力が高まり観光客も増え、住民と観光客がふれあう機会もできています。
- ▼ 地域の仕事などを見直していくことにより、若い世代の担い手が増え、祭りや行事は存続・継承されています。外に住む人も地域の仕事や行事の運営などに協力してもらっています。

③ 羽布自治区の5年間の取組

取組1 定住・移住の促進(空き家活用、移住者受入の仕組みづくり)

地域が守りたい景観や祭り(伝統)の継承など、皆が楽しく安心して暮らせる地域づくりを目指して、空き家の活用や移住者の受入体制を整えます。各家庭で住宅の将来を考える仕組み、空き家を活用しやすくする仕組みをつくとともに、移住者が地域に溶け込みやすくするための取組を行います。

取組2 住民同士の支え合い体制整備

地域住民が安心して暮らし続けられるように、災害時などにおいても住民相互の助け合いがスムーズにできるような体制を整えます。地域の高齢者世帯や一人暮らし世帯に対して無理なく見守りを行うような活動や互いに助け合いを行うような活動を進める仕組みづくりを行います。

取組3 農山村の魅力や景観の維持・向上

生活環境の維持(住みよい環境)や地域の活性化のために、農地・山林や道路・水路を地域共有の財産として地域で草刈や清掃等を行い、共同で管理するなど、地域の景観を維持・管理する取組を行います。また、観光資源を有効活用するとともに、地域の観光事業者と連携を強化しながら、地域で実施可能な事業(WRCや鯉のぼりの掲揚など)を検討し、実施していきます。

取組4 自治区運営の維持・改善(次世代に引き継ぐためのお役や行事の再編)

このまま高齢化が進み、若者は減少すると、お役を担える人が固定化し、地域の活動が維持できなくなることが懸念されます。今後もお役や地域行事を次世代に引き継ぐために、現状把握を進めるとともに、実施方法の見直しや自治区の運営体制の在り方を検討します。

